

勝部川水系 河川整備計画

平成21年9月

鳥 取 県

目次

	ページ
1 . 流域と河川の概要 -----	1
1.1 流域の概要 -----	1
1.2 現状と課題 -----	4
1.2.1 治水の現状と課題 -----	4
1.2.2 利水の現状と課題 -----	9
1.2.3 河川環境の現状と課題 -----	10
2 . 河川整備計画の目標に関する事項 -----	12
2.1 計画対象区間 -----	12
2.2 計画対象期間 -----	12
2.3 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	12
2.4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 -----	13
2.5 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	13
3 . 河川の整備の実施に関する事項 -----	14
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに 当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要 --	14
3.1.1 勝部川の流下能力向上対策 -----	15
3.1.2 日置川の流下能力向上対策 -----	20
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 -----	27
3.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項 -----	27

1 . 流域と河川の概要

1.1 流域の概要

勝部川は、その源を鳥取県鳥取市青谷町南部の小富士山(標高 769m)に発し、流域西側の桑原、澄水、楠根地先の谷筋を北流しながら、今西川、八葉寺川、山田川、蔵内川、露谷川、日置川等の支川を合わせ、青谷町青谷において日本海に注ぐ、幹川流路延長 11.8km、流域面積 60.5km²の二級河川です。

その流域は、鳥取市青谷町のほぼ全域に及び、町の中心市街地を有していることから、当地域における社会・経済の基盤をなしています。

勝部川に合流する代表的支川日置川は、その源を鳥取市鹿野町との町界に発し、露谷川、蔵内川の支川を合わせ、鳥取市青谷町の中心地を流下する流域面積 24.8km²、流路延長 10.4kmの河川です。

流域の気候は、年平均気温 15 程度と全国のほぼ平均です。年平均降水量は 1,900mm 程度で、台風や梅雨による影響により 6 月～ 9 月の降水量が多い傾向にあります。また、本流域は日本海型気候区にあたり、西高東低の気圧配置による北西の季節風とともに豪雪、強風となり、日照時間が短くなる特徴があります。

流域の地形・地質は、鉢伏山(514m)の火山活動により形成された溶岩台地が広く分布し、この大部分は新第三紀鮮新世の安山岩及び玄武岩の溶岩流からなります。勝部川及び日置川の中・上流域は、河川によって運ばれた砂礫が堆積した平坦地が細長く連続して谷底低地が形成し、下流部は勝部川及び日置川の氾濫により形成された三角州性低地がみられます。

流域の土地利用状況は、河口部を横断する国道 9 号から南部にかけて、宅地及び商業地が広がり、JR 山陰本線青谷駅南側は主に工場地帯に、JR 山陰本線の南側の日置川右岸及び勝部川右岸は水田地帯を有しています。流域の約 8 割は山林及び原野等の緑豊かな自然に囲まれる地域となっています。

流域の交通機関として、河口部を横断する国道 9 号や高規格道路「青谷・羽合道路」、勝部川や日置川沿いの主要地方道、下流平地部を横断する JR 山陰本線が重要な役割を果たしています。

また、勝部川と日置川の合流点付近において、平成 10 年度から 3 年 3 ヶ月の期間をかけて発掘調査された「青谷上寺地遺跡」は、2,200 年前から 1,700 年前まで栄えた弥生時代の集落跡で、出土品が数万点にのぼるうえ、保存状態が良好であり、奇跡的に残った「弥生人の脳」や高い技術を示す木製容器、海外からもたらされた鉄器のほか、戦いによって傷ついたと考えられる「殺傷痕人骨」も注目されています。

鳥取市青谷町は、昭和 28 年 7 月 1 日「^{あおやちょう}青谷町」「^{ひおきだにそん}日置谷村」「^{なかのごうそん}中郷村」「^{かちべそん}勝部村」の 4 町村合併と昭和 30 年 3 月 31 日「^{ひおきむら}日置村」の編入合併を経て誕生し、平成 16 年 11 月 1 日に鳥取県東部 9 市町村（^{とっとりし}鳥取市、^{こくふちよう}国府町、^{ふくべそん}福部村、^{かわはらちよう}河原町、^{もちがせちよう}用瀬町、^{さしそん}佐治村、^{けたかちよう}気高町、^{しかのちよう}鹿野町、^{あおやちょう}青谷町）の編入合併で鳥取市となったのが、現在までの主な経緯です。

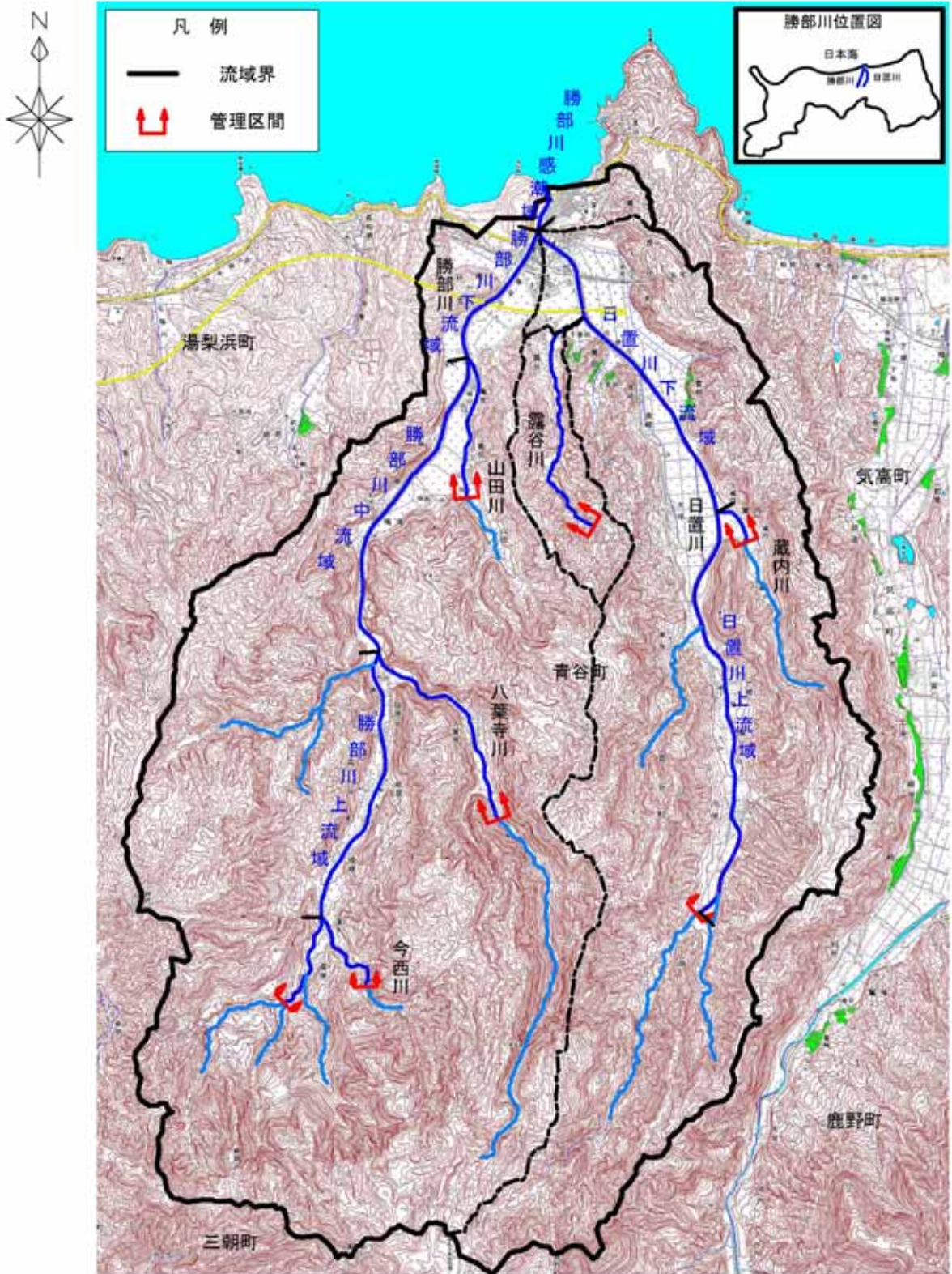


图 1-1 勝部川水系 流域概要図

1.2 現状と課題

1.2.1 治水の現状と課題

勝部川流域における主要な河川には、勝部川と河口部付近で勝部川に合流する日置川があります。また、勝部川は河口部が砂州の発達により閉塞される河川であり、下流部の河床高が高く、河積が不足しています。さらに、低い堤内地盤から各支川（小河川）が合流してきています。

これらのことに起因して、勝部川流域ではこれまで幾度となく洪水被害に見舞われてきました。なかでも昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風では、家屋流失 2 戸、床上浸水 127 戸、床下浸水 201 戸、青谷町関係被害 2 億 6 千万円という被害を受け、この災害を契機に、勝部川では河口から山田川合流点までの 2.2 km、日置川では勝部川合流点から JR 橋までの 0.6km の区間の改修計画を定め、昭和 44 年に事業に着手しました。改修計画の内容は、築堤・護岸、河道拡幅及び河床掘削により河道の流下能力を向上させるもので、今日に至るまで、主に築堤・護岸と河道拡幅による整備を先行して実施してきました。

しかしながら、勝部川、日置川とも河床掘削が未着手であるうえ、一部の区間では堤防高が不足しているほか、特に日置川の JR 橋上流において河道の流下能力不足のため、依然として浸水被害が発生しています。

近年においては、昭和 62 年 10 月の台風 19 号、平成 2 年 9 月の台風 19 号、平成 10 年 10 月の台風 10 号、平成 16 年 10 月の台風 23 号等の洪水により、堤防越水や床上浸水等の大きな被害が発生していることから、今後とも引き続き治水対策を継続していく必要があります。

近年の主な洪水とその被害状況を表 1-1 に、昭和 62 年 10 月 16～17 日台風 19 号及び平成 16 年 10 月 20 日台風 23 号による浸水状況を図 1-2、図 1-3 に示します。

表 1-1 近年の主な洪水と被害の状況

年	月日	原因	時間最大雨量 (mm/h)	浸水戸数(戸)		被害額(千円)		備考
				床上	床下	一般資産	公共土木	
S34	9/25~27	伊勢湾台風	-	127	201			町関係分被害 260,000
S46	8/30~31	台風23号	44.0	9	78	182,414		
S47	7/10~13	集中豪雨	24.5		15	32,430	4,710	
S51	9/8~13	台風17号	40.0	3	28	26,000	37,618	
S54	10/18~19	台風20号	24.5	21	132	7,700	44,495	
S58	9/27~28	台風10号 秋雨前線	16.0				14,754	
S62	10/16~17	台風19号	60.0	156	308			被害総額 724,000
H2	9/18~19	台風19号 秋雨前線	18.5		24			被害総額 523,000
H6	9/29~30	台風26号	16.5		5		28,835	
H10	10/17~18	台風10号	40.5	3	42		251,621	
H16	10/19~21	台風23号	22.0	1	23		42,703	

出典：「青谷町地域防災計画<風水害等対策編>」、「水害統計」

青谷町全図

昭和60年1月調査

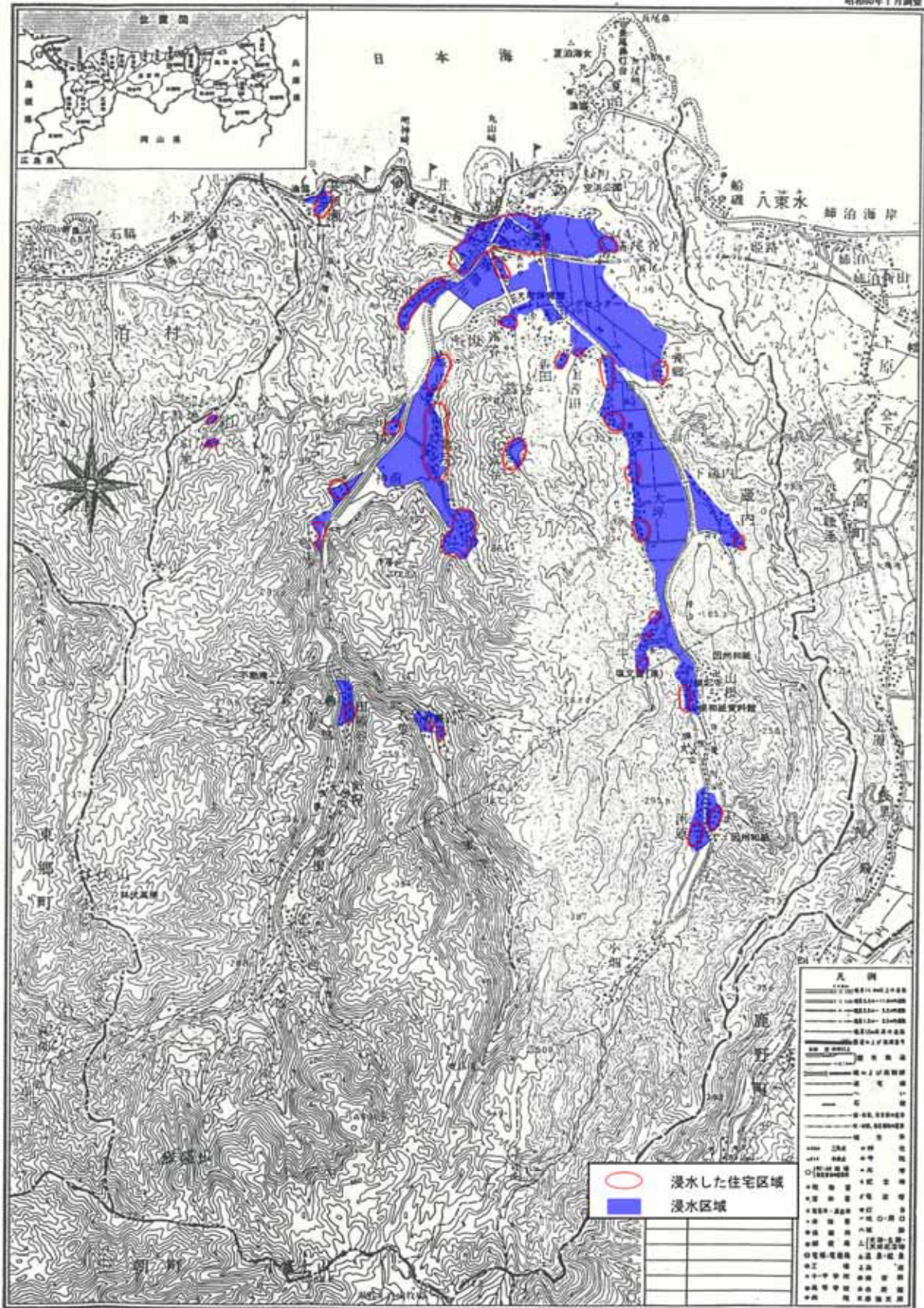


図 1-2 昭和 62 年 10 月 16 ~ 17 日 台風 19 号 浸水区域図

(注：浸水被害のあった住宅を調査し、それより低い土地を着色して作成)

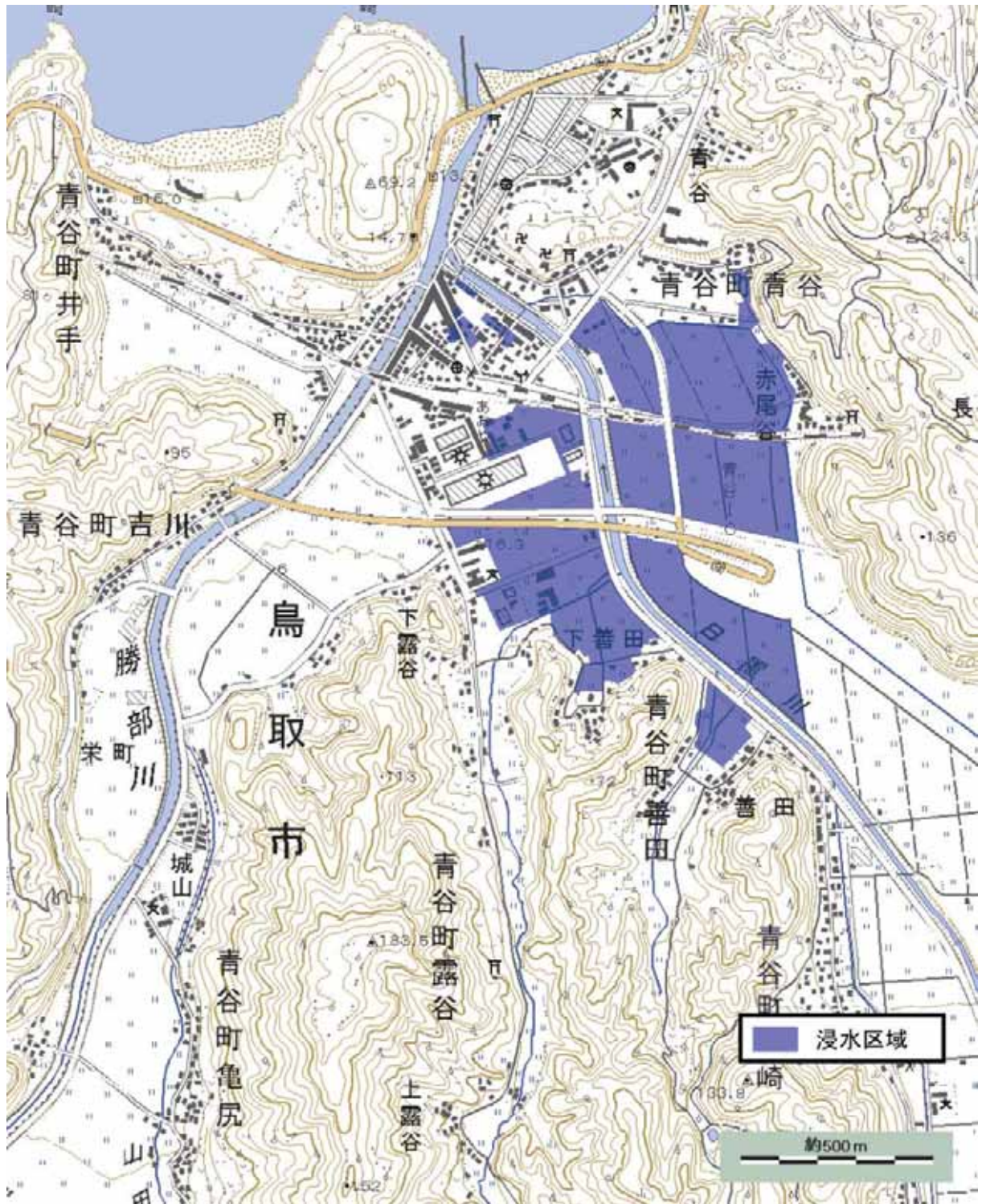


图 1-3 平成 16 年 10 月 20 日 台風 23 号 浸水実績図



被害状況写真 1-1 日置川 J R 山陰本線上流冠水状況(H16.10 台風 23 号)



被害状況写真 1-2 県道依原青谷線冠水状況(H16.10 台風 23 号)

1.2.2 利水の現状と課題

勝部川流域では、特に支川日置川は、河床勾配が緩やかな箇所では排水が悪いため湿田が多いですが、中下流部を中心に稲作が盛んで、その他本川勝部川等も含め約 235ha の灌漑用水及び製紙工場などの工業用水として利用されています。

これに対して河川流量は、西日本の広い範囲で湯水被害が生じた平成 6 年の湯水時においても既得の水利用に支障をきたした報告はなく、流域各所で^{ほしよ}圃場整備が進められる等合理的な^{りゅうきよ}水利用が図られているため、比較的良好な流況を保っています。

(1) 工業用水
(2) 胡蝶川原用水
(3) 龜房用水
(4) 若宮用水
(5) 川種内台用水
(6) 二木前用水
(7) 内河原用水
(8) 神崎用水
(9) 内谷用水
(10) 大井手用水
(11) 村内用水
(12) 井手口用水
(13) 下薮也頭首工
(14) 宮後用水
(15) 大田用水
(16) 西村内用水
(17) 東村内用水
(18) ハンシ川用水
(19) 河原町用水
(20) 孫坂用水
(21) 中河原用水
(22) 西川用水
(23) 下瀬川用水
(24) 向田用水
(25) 御堂田用水
(26) 洞窟アイツ取水位置
(27) かんがい用水水路取水構築
(28) かんがい用井堰取水管
(29) かんがい用水路施設
(30) 糠田用水
(31) 下徳田用水
(32) 石ヶ坪用水
(33) 加山取水路
(34) 杉の宮第四用水
(35) かんがい用暗渠
(36) 杉の宮第一用水
(37) かんがい用暗渠及び分水路
(38) 傍宗養用水
(39) かんがい用暗渠及び分水路
(40) 西下前田用水
(41) 代官田用水
(42) 山ノ鼻用水
(43) 竹ヶ鼻用水
(44) 中井手用水
(45) 東井手水路
(46) 碓砂用水
(47) 西井手水路
(48) 碓砂用水
(49) 前田用水
(50) 西村用水
(51) 丸瀬第一用水
(52) 丸瀬第二用水
(53) 丸瀬第三用水
(54) かんがい用水路
(55) 上河原用水
(56) 房安用水
(57) 中瀬水路
(58) 上河原頭首工
(59) 長谷川第一用水
(60) 長谷川第二用水
(61) 中瀬頭首工
(62) 用水路
(63) 寺の下用水
(64) 都築谷用水
(65) 洞窟アイツ取水位置
(66) 立山 2 号用水
(67) 立山 1 号用水
(68) 吹詰用水
(69) 吹詰頭首工
(70) 東村内 1 号用水
(71) 西村内用水
(72) 会下前用水
(73) 中瀬 4 号用水
(74) 中瀬 3 号用水
(75) 中瀬 2 号用水
(76) 中瀬 1 号用水
(77) 大出用水
(78) 取水管
(79) 取水管
(80) 取水管
(81) 取水管
(82) 取水管
(83) 取水管
(84) 取水管
(85) 取水管
(86) 取水管
(87) 取水管
(88) 取水管
(89) 取水管
(90) 取水管
(91) 前田用水
(92) 袋房用水
(93) 今西用水
(94) 二瀬前用水
(95) 竹ノ前用水

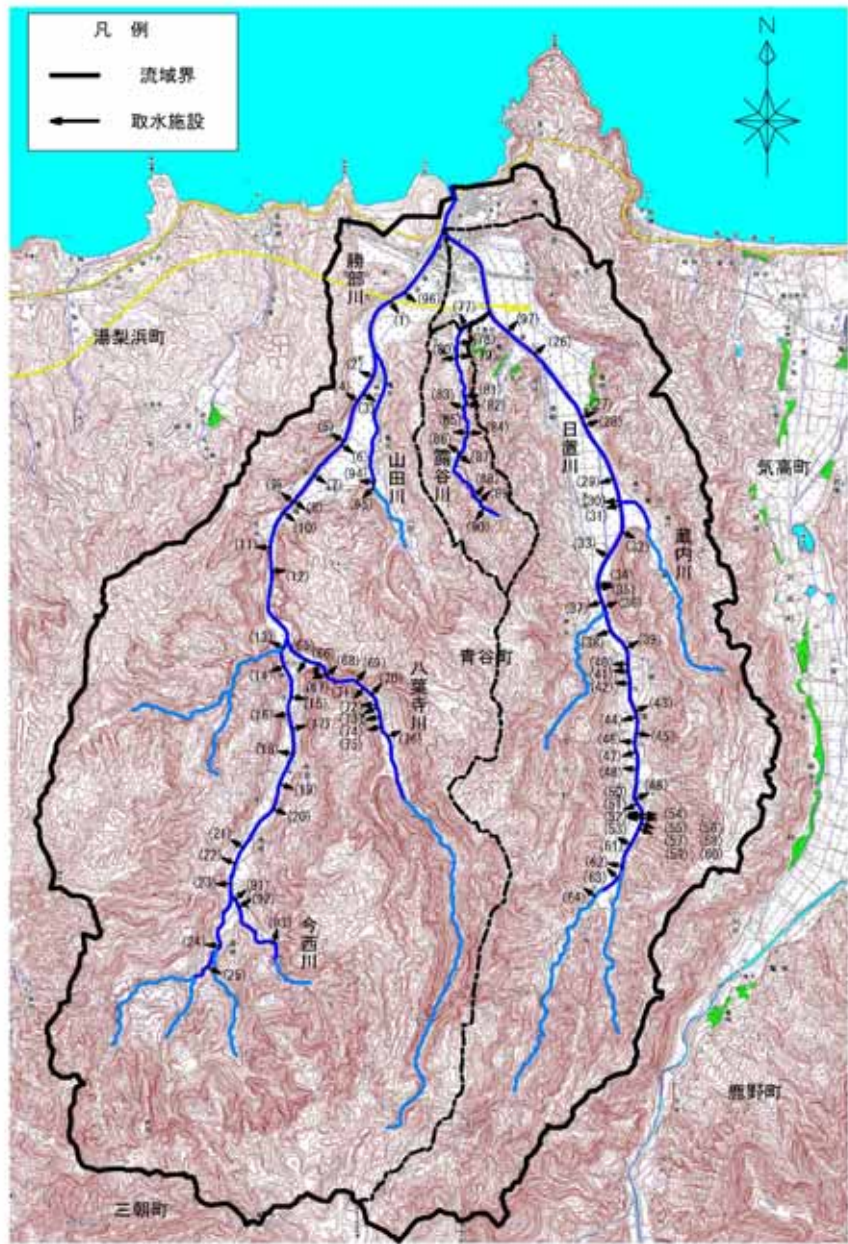


図 1-4 取水施設位置平面図

1.2.3 河川環境の現状と課題

(1) 水質

勝部川水系には、生活環境の保全に関する環境基準値は設定されていませんが、本川の中下流部に5カ所、支川日置川に4カ所の計9カ所に水質測定地点を設定し、鳥取県及び鳥取市により定期的な観測が行われています。鳥取県の観測地点である青谷・吉川・善田における平成19年のBOD75%値はいずれも2.0mg/l以下であり、水質は良好といえます。

勝部川流域における水質測定箇所を図1-5に、BOD75%値の経年変化図を図1-6に示します。

- 注) ・環境基準値 : 国及び県が河川ごとに定めた人の健康と生活環境を守るための目標値です(勝部川では生活環境の保全に関する環境基準値は設定されていません)。
 ・BOD(生物化学的酸素要求量) : バクテリアが水中の有機物を酸化するのに要する酸素量で、数値が高いほど川が汚れていることを表しています。
 ・75%値 : 年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目(n は日間平均値のデータ数)のデータ数をもって75%値とします($0.75 \times n$ が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとります)。

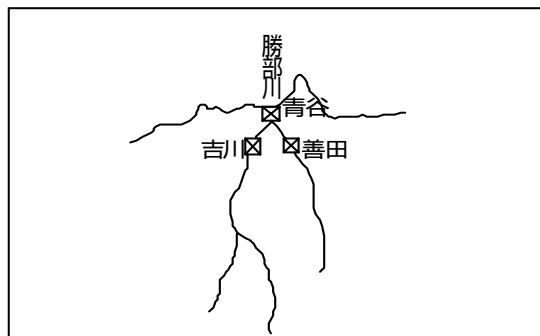


図 1-5 水質測定箇所位置図

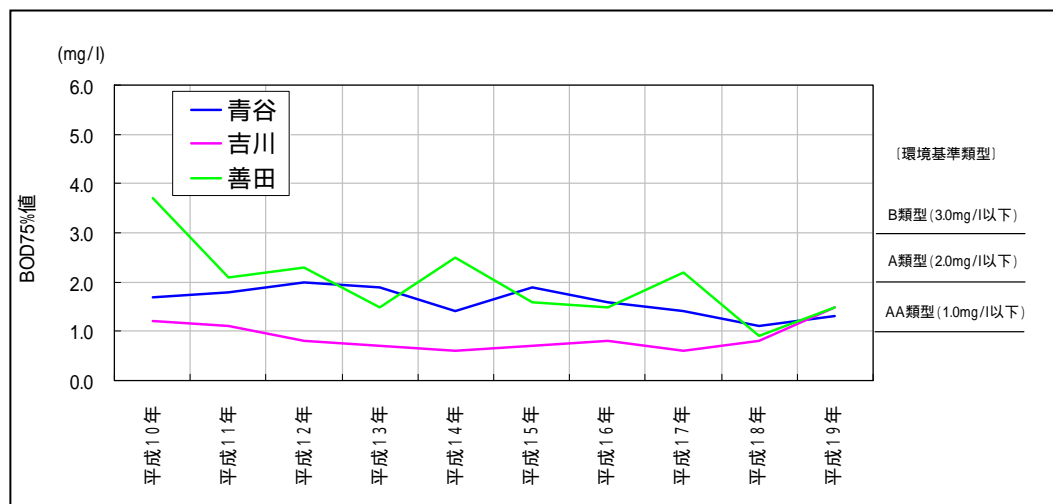


図 1-6 BOD75%値の経年変化図

[出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果]

(2) 自然環境

勝部川は、コナラ等の山林に囲まれた急な山間部を蛇行しながら流下し、中流部で集落及び水田地帯を流れる河川へと変遷し、下流部は青谷町の市街地を流れ日本海へと流れ出る、自然豊かな環境を有する河川です。

勝部川上流部は急勾配の場所も多く礫河床であり、流れの早い水際に生育するツルヨシが繁茂します。礫河床を好むヤマメやカワムツ類などの魚類が生息しています。流れの早い瀬は、潜って水生昆虫を食べるカワガラスの採餌の場となっています。また水辺や河川敷は、山林に生息するキツネ・タヌキ・テン・イタチ・アナグマ・イノシシなどの哺乳類の水飲み場や餌場として利用されています。

勝部川中流部は、ツルヨシ・オギ・ネザサなどの植物が繁茂し、キセキレイ・セグロセキレイなどの採餌の場となっています。また、ホオジロ・シジュウカラなどの鳥類が枝や穂に留まり囀るのがみられます。中流部に多い平瀬や淵には、アユ、ヨシノボリ類などの魚類が生息し、これらを餌とするアオサギが飛来します。

勝部川下流部は、流れは緩やかで河床材料は砂礫が主となり、水際にはヨシなどの抽水植物が繁茂します。流れの緩やかな水面は、マガモ・キンクロハジロ、カルガモなどのカモ類の休息・採餌の場となり、カルガモは水辺近くの植物群落を営巣地として利用します。また、フナ、タナゴ類、メダカなどの魚類が生息します。

感潮域の河口部は、みお筋を通じて海水魚・汽水魚が回遊すると思われまます。これらを餌とするカワウ・カイツブリが飛来します。

日置川上流部は、水面幅が狭く流量が少ないですが、勾配があるため流れが早くなっています。早瀬が多くみられ、水生昆虫等の重要な生息環境となっています。水際および河川敷にはツルヨシが繁茂し、場所によっては河道内いっばいに繁茂しています。河川敷の草地を飛ぶ昆虫を採餌するキセキレイ、セグロセキレイがみられます。

日置川下流部は、流れは緩やかで、河床は砂礫、もしくは石の場所が多くなっています。水際には、抽水植物のヨシが繁茂し、魚類や水生昆虫等の重要な生息場所になります。また、カルガモの隠れ場所、休息場所になります。下流部の所々において小さな淵がみられ、アユ、ヨシノボリ類などの魚類が生息し、これらを餌とするアオサギが飛来します。

(3) 河川空間の利用

勝部川流域の河川空間は、河口部でプレジャーボート、釣り舟等の水面利用がなされ、中上流域の集落付近では、魚釣り、水遊びといった憩いの場として利用されています。

このように、勝部川流域は、多様な生物が生息する豊かな生態系等、景観や自然に恵まれた地域であり、計画にあたっては、これらの景観、自然を生かす必要があります。

2 . 河川整備計画の目標に関する事項

2.1 計画対象区間

本整備計画の対象区間は、表 2-1 に示す勝部川水系の県管理区間とします。

表 2-1 河川整備計画の対象区間

河川名	対象区間
勝部川	河口から 11.0km
山田川	勝部川合流点から 2.1km
八葉寺川	勝部川合流点から 2.0km
今西川	勝部川合流点から 0.6km
日置川	勝部川合流点から 9.0km
露谷川	日置川合流点から 2.8km
蔵内川	日置川合流点から 0.5km

2.2 計画対象期間

本整備計画の対象期間は、おおむね 30 年とします。

なお、本計画は現時点における知見により策定するものであり、将来の洪水などによる被害の発生状況、水利用の変化や渇水被害の発生状況、河川環境や沿川環境の変化及び社会環境情勢の変化に応じて、適宜見直すことを妨げないものとします。

2.3 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

洪水による災害の発生の防止又は軽減を図るため、勝部川及び日置川においては、既往の洪水の被害状況及び氾濫区域の資産等を総合的に検討し、概ね 50 年に 1 度程度発生すると想定される降雨による洪水を安全に河道に流下させるための整備を進めます。これは、観測史上最大の昭和 62 年 10 月台風規模の洪水にも対応できるものです。

また、日置川の支川の露谷川においては、概ね 10 年に 1 度発生すると想定される降雨による洪水に対して整備済みですが、支川処理として背水影響区間の築堤を行います。

2.4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現在農業用水等の取水が行われていますが、これまでに渇水による被害は報告されていません。しかし、今後とも農業用水等の安定取水に配慮するとともに、現在の多様な生態系や良好な水質等を保全するため必要な流量の維持に努めます。また、必要に応じて流況を把握するとともに、水利用の実態や自然環境などの把握に努めます。

2.5 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、治水及び利水との調和を図り、河川の清浄な流れと豊かな緑、多様な生態系や景観の保全に努めるものとします。

また、豊かな自然とのふれあい、水辺に近づくことができる施設を整備するとともに、河川の整備を行う際は自然の川のもつ多様な流れを創出し、動植物の生息に配慮した多自然型川づくりを推進します。

さらに、周辺住民の生活環境への配慮はもとより、自然環境への影響に対しても工事内容及び保全対策に応じて適切な対処を図り、良好な自然環境を保全します。

3 . 河川の整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

勝部川水系における河川整備計画の目標を達成するため、次のとおり河川の整備を実施します。

勝部川では、主に河床掘削と護岸整備を進めます。

日置川では、主に築堤・護岸、河道の拡幅、河床掘削による整備を進めます。

これら工事を行う際の整備目標流量配分図を図 3-1 に示します。

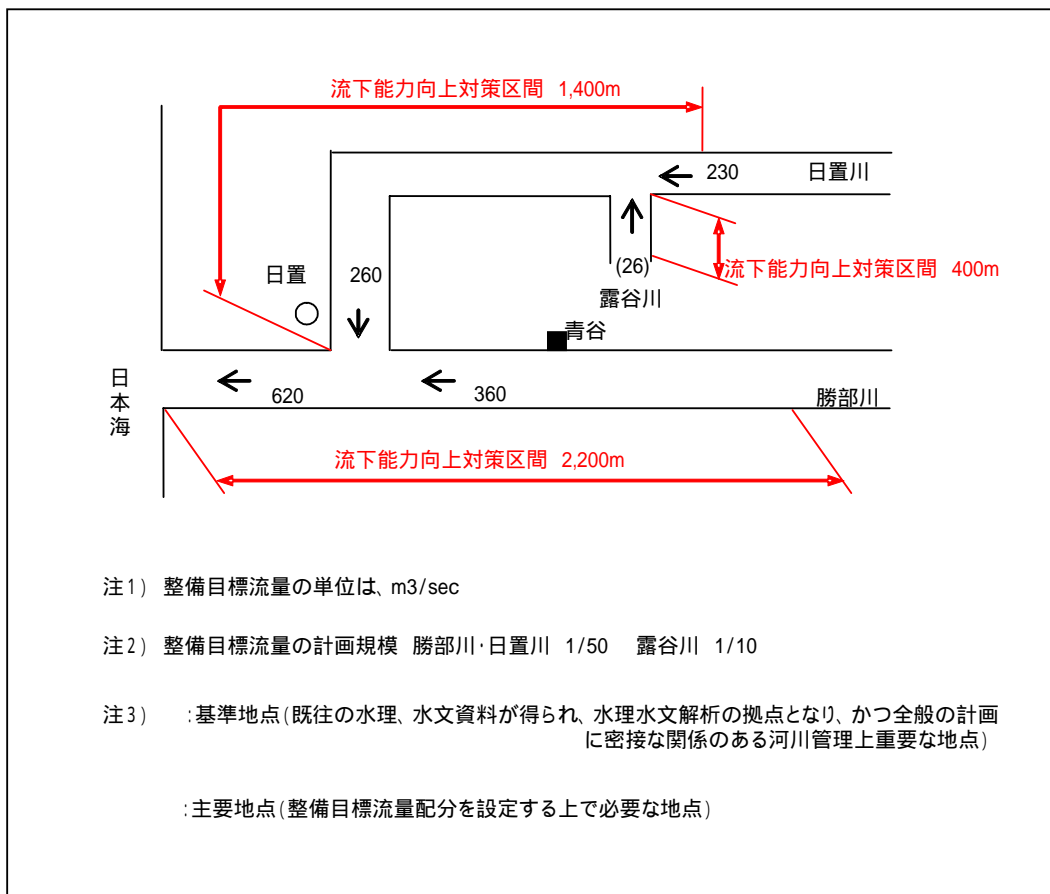


図 3-1 整備目標流量配分図

3.1.1 勝部川の流下能力向上対策

勝部川の流下能力向上対策は、内水被害の軽減、氾濫原である青谷町低地部における治水安全度向上のため、河床掘削によって河道断面積の拡大を図り、護岸整備を行います。

河床掘削については、河川景観や自然環境に配慮することとします。特に河口部の河床掘削については、堆積状況の変動等を確認しながら、洪水が堆積土砂を押し出す効果等を検討することとします。

護岸整備については、動植物の生息・生育等の生態系に配慮した形式とし、水際の植物群落の形成により水際に多様性を持たせることとします。また、水辺に近づき自然と触れ合えるよう親水性に配慮した護岸形式とし、潤いとふれあいのある水辺空間の形成を図ります。

勝部川の流下能力は図 3-2 に示すとおりであり、整備目標流量に対して流下能力が不足しています。河川整備を実施する区間を図 3-3 に、縦断面図及び横断イメージ図を図 3-4～5 に示します。

また、勝部川の流下能力向上対策区間の整備内容を表 3-2 に示します。

表 3-2 流下能力向上対策区間の整備内容

河川名	整備区間	延長	整備の内容
勝部川	河口～日置川合流点	約 520m	・河床掘削
	日置川合流点～JR 山陰本線鉄橋	約 420m	・護岸 ・河床掘削
	JR 山陰本線鉄橋～山田川合流点	約 1,260m	・河床掘削

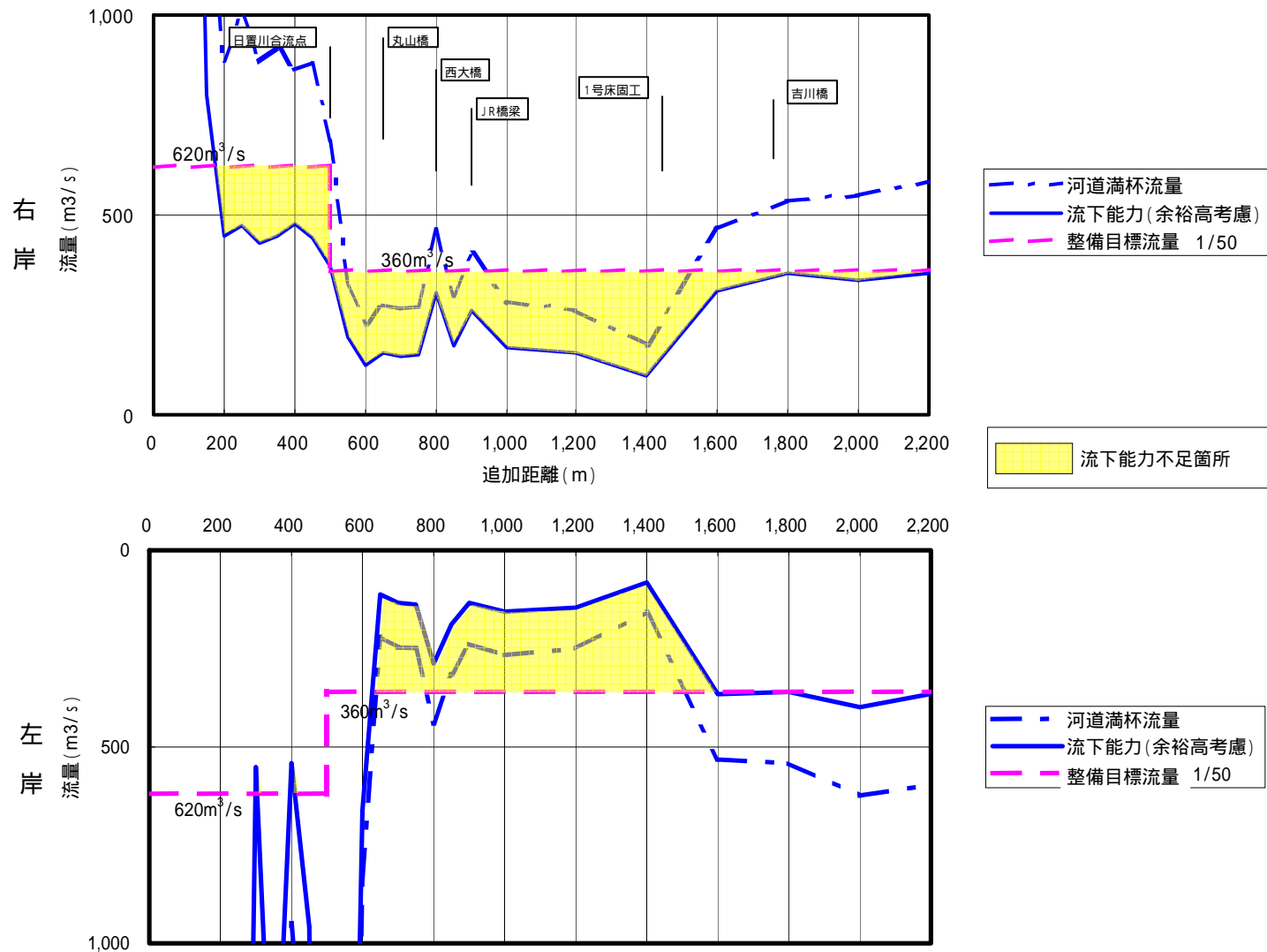


図 3-2 勝部川 流下能力図

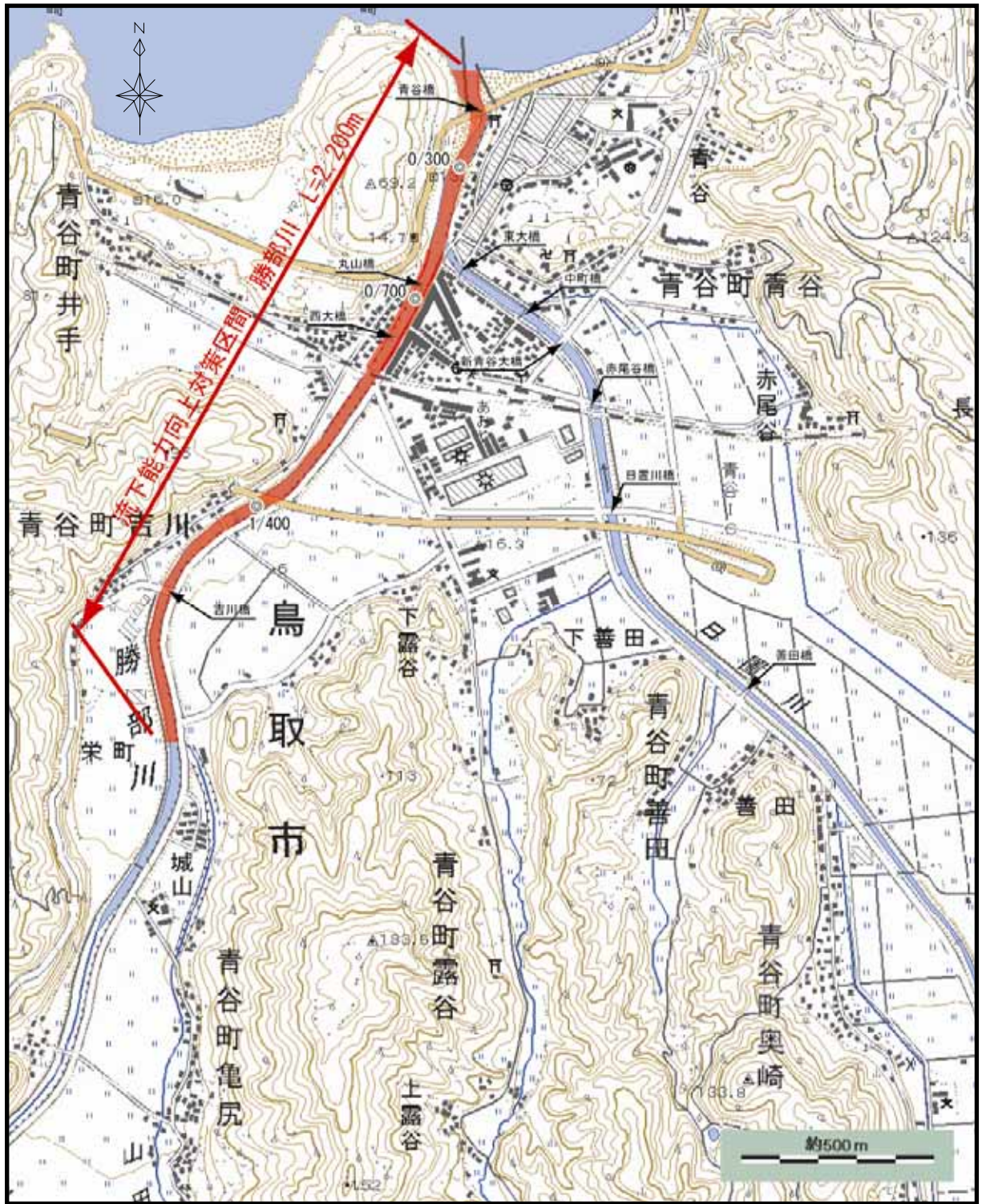


图 3-3 勝部川 流下能力向上対策区間位置图

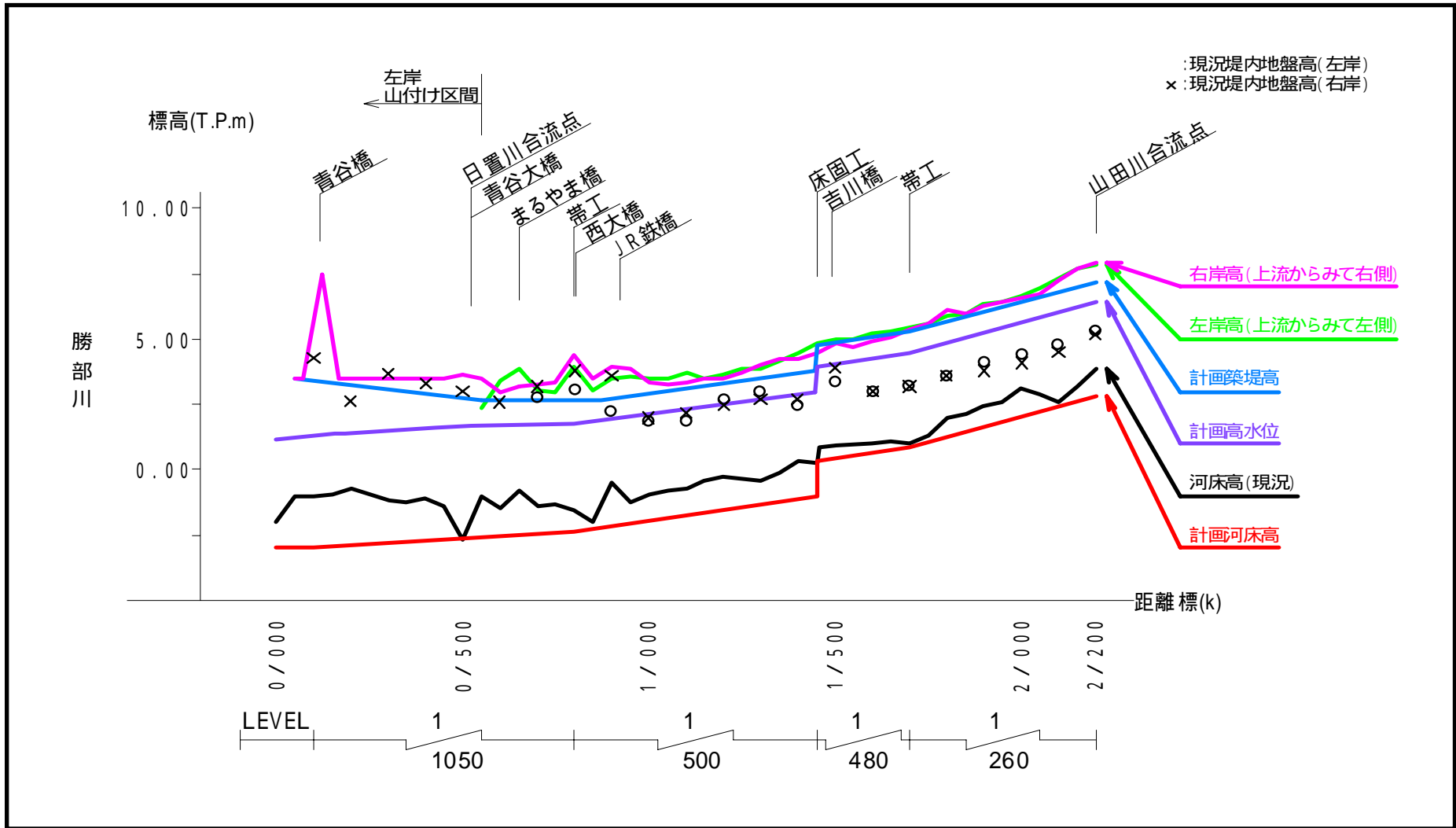
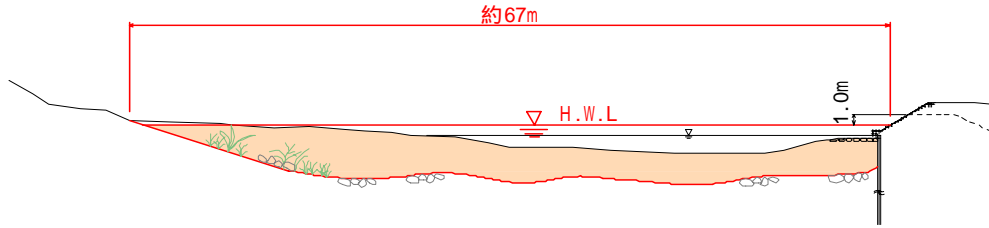
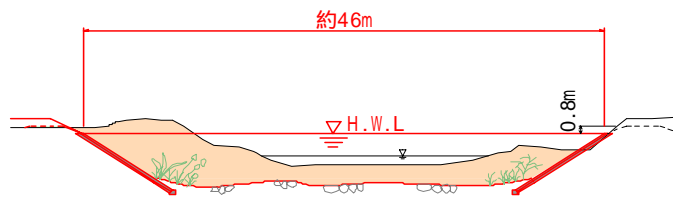


図 3-4 勝部川縦断図

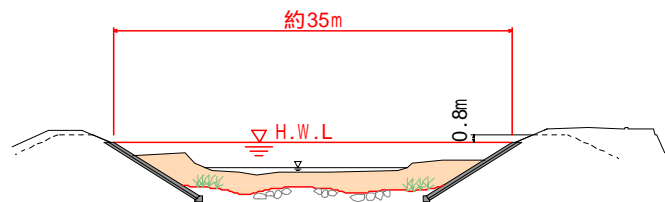
勝部川 0/300付近



勝部川 0/700付近



勝部川 1/400付近



H.W.L.: 計画高水位

—: 現況

—: 計画

■: 掘削

■: 盛土

図 3-5 勝部川 横断イメージ図

注) 現地の状況により、横断形状を変更することがあります。

3.1.2 日置川の流下能力向上対策

日置川の流下能力向上対策は、内水被害の軽減、氾濫原である青谷町低地部における治水安全度向上のため、築堤・護岸、河道の拡幅、河床掘削を行い、河道断面積の拡大を図ります。日置川の支川露谷川においては、日置川の背水影響区間を築堤により整備することとします。

河道の拡幅、河床掘削については、現況の瀬・淵を考慮し、動植物の生息・生育空間など良好な河川環境の創出を図るとともに、河川景観や自然環境に配慮することとします。また、水辺に近づき自然と触れ合えるよう親水性に配慮した形式とし、潤いとふれあいのある水辺空間の形成を図ります。

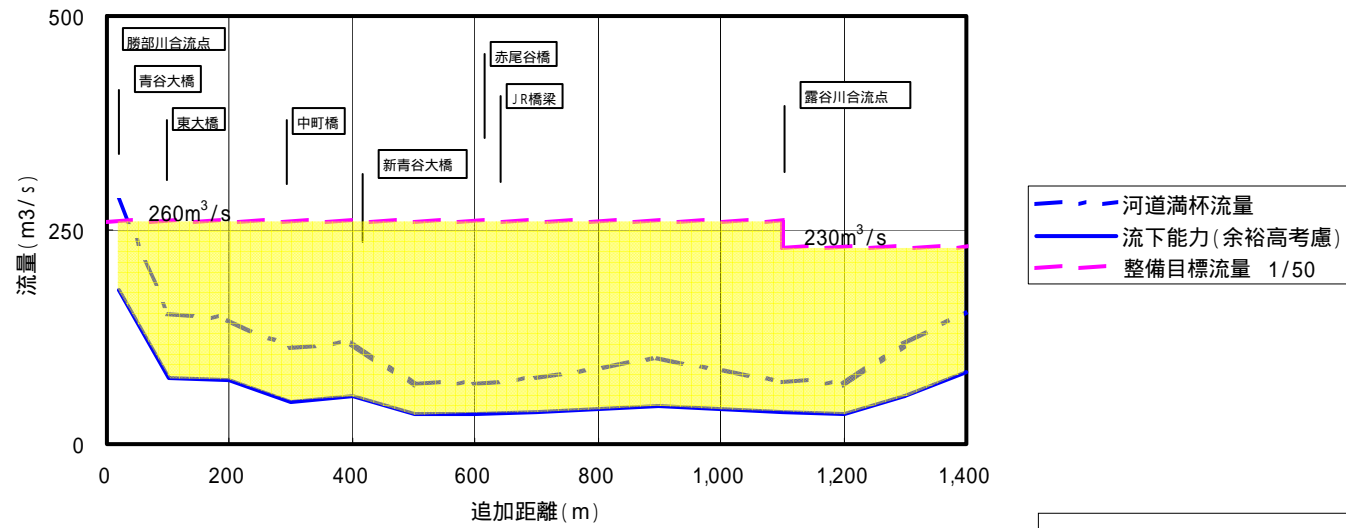
日置川の流下能力は図 3-6 に示すとおりであり、計画高水流量に対して流下能力が不足しています。河川整備を実施する区間を図 3-7 に、日置川の縦断図及び横断イメージ図を図 3-8～9 に、露谷川の縦断図及び横断イメージ図を図 3-10～11 に示します。

また、日置川の流下能力向上対策区間の整備内容を表 3-3 に示します。

表 3-3 流下能力向上対策区間の整備内容

河川名	整備区間	延長	整備内容
日置川	勝部川合流点～新青谷大橋	約 420m	・河床掘削
	新青谷大橋～JR 山陰本線鉄橋	約 220m	・築堤（右岸） ・河床掘削
	JR 山陰本線鉄橋～左岸第 1 山付け	約 760m	・築堤・護岸 ・河床掘削
露谷川	日置川合流点～約 400m 地点	約 400m	・築堤

右岸



左岸

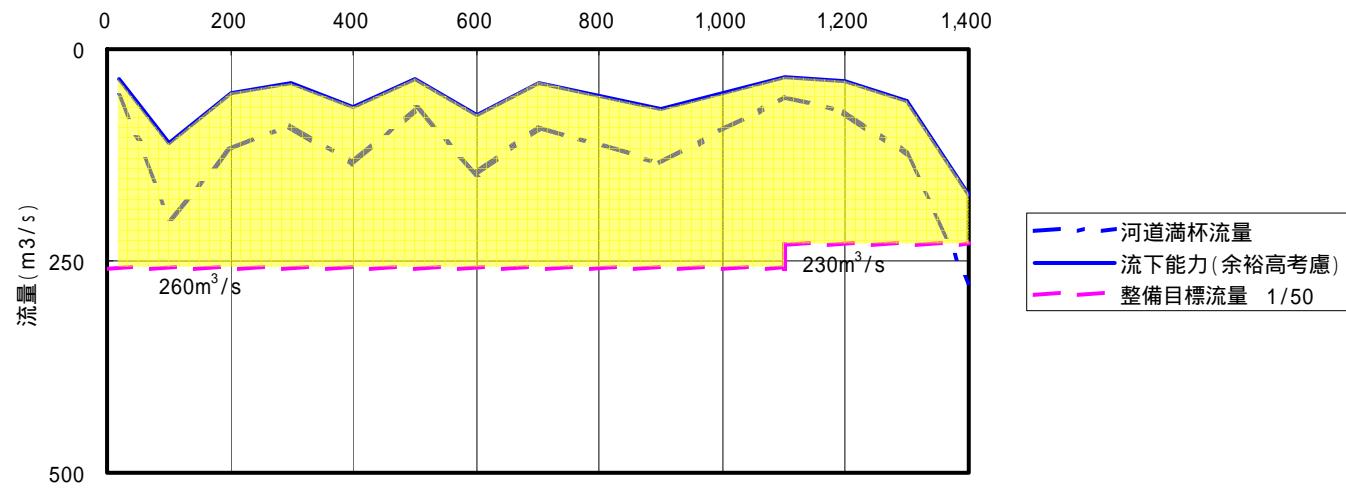


図 3-6 日置川 流下能力図

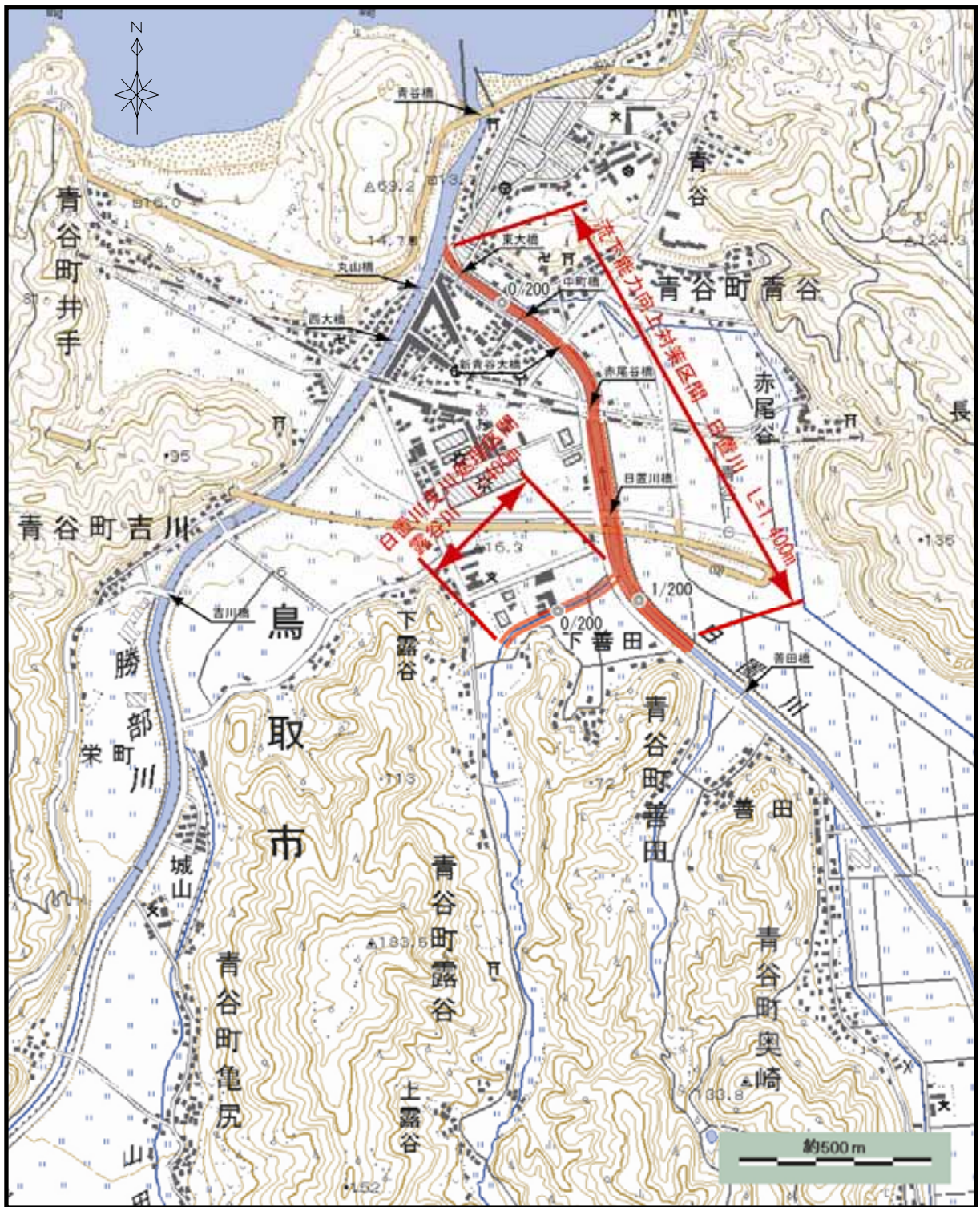


図 3-7 日置川 流下能力向上対策区間位置図

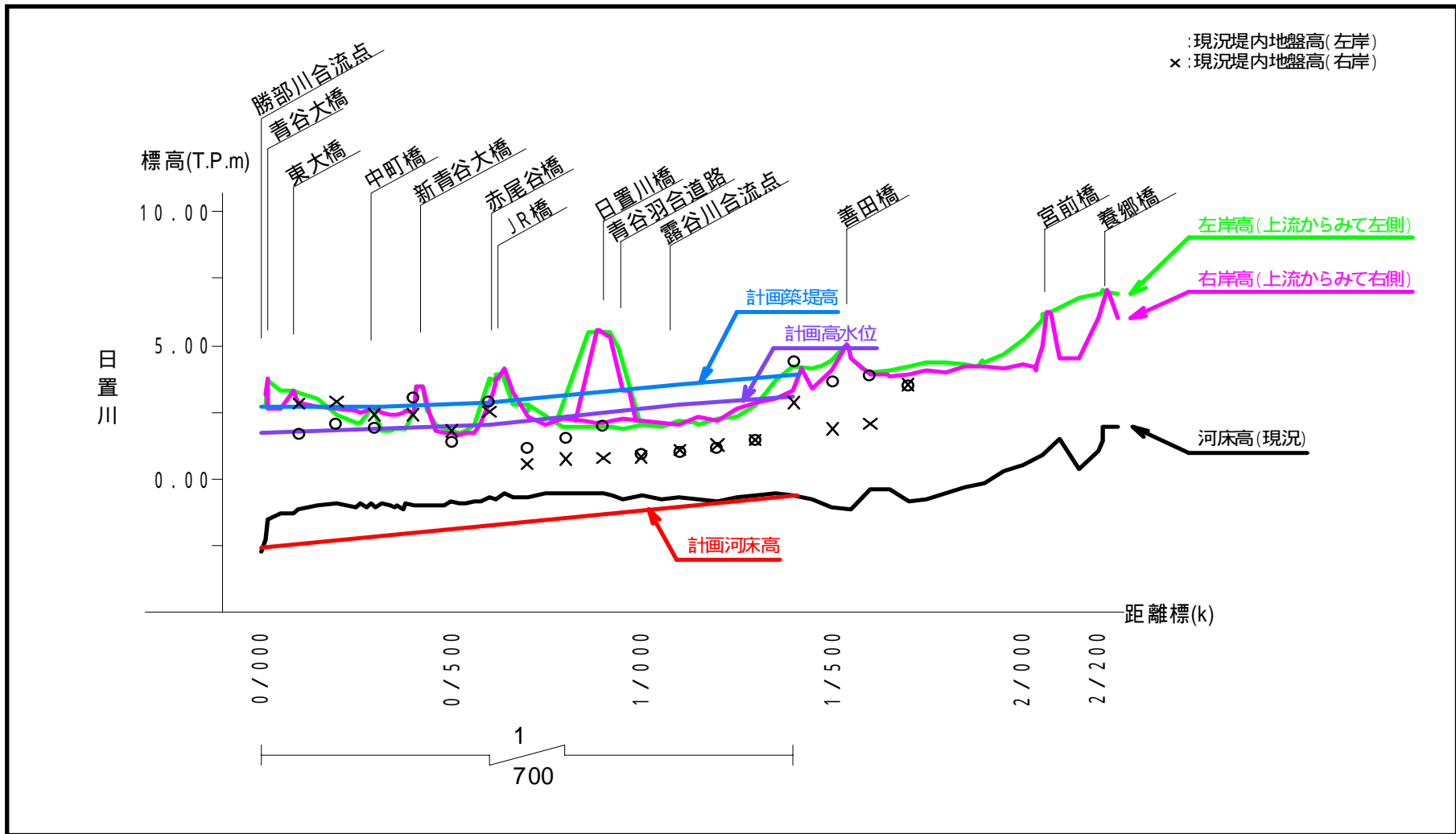
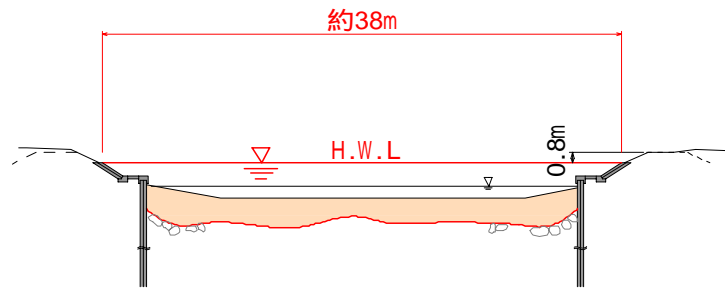
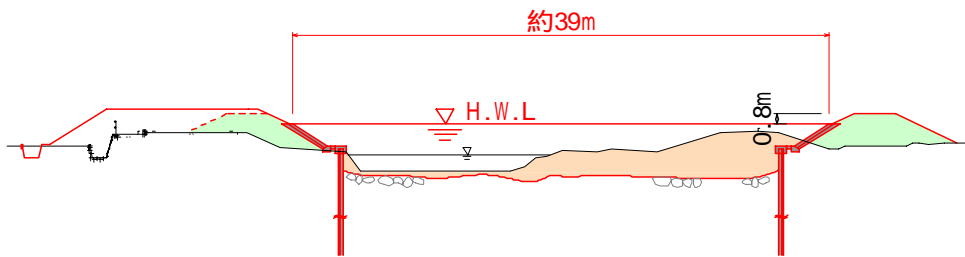


図 3-8 日置川縦断面図

日置川 0/200付近



日置川 1/200付近



H.W.L : 計画高水位

— : 現況

— : 計画

■ : 掘削

■ : 盛土

図 3-9 日置川 横断イメージ図

注) 現地の状況により、横断形状を変更することがあります。

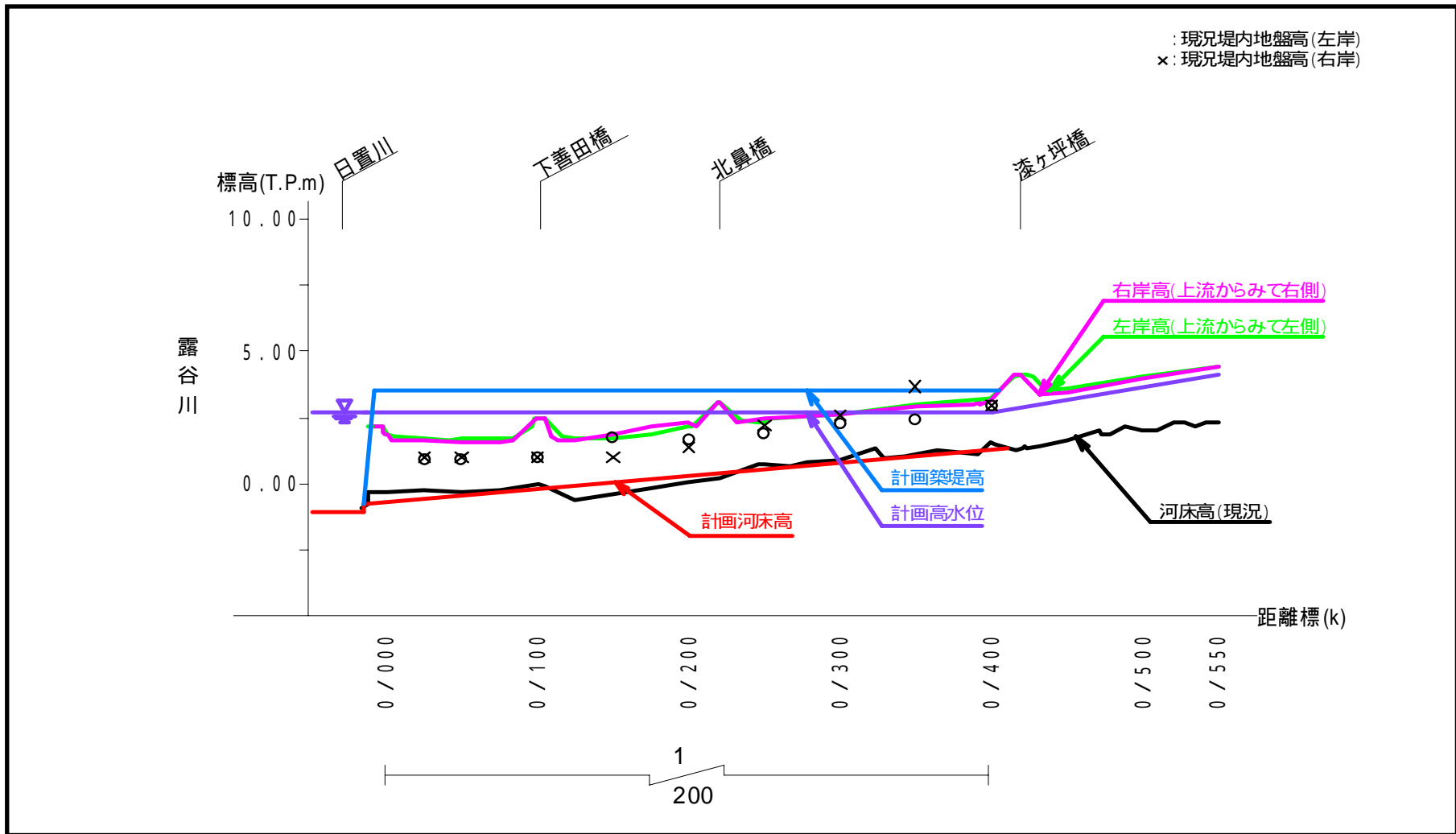


図 3-10 露谷川縦断図

露谷川 0/200付近

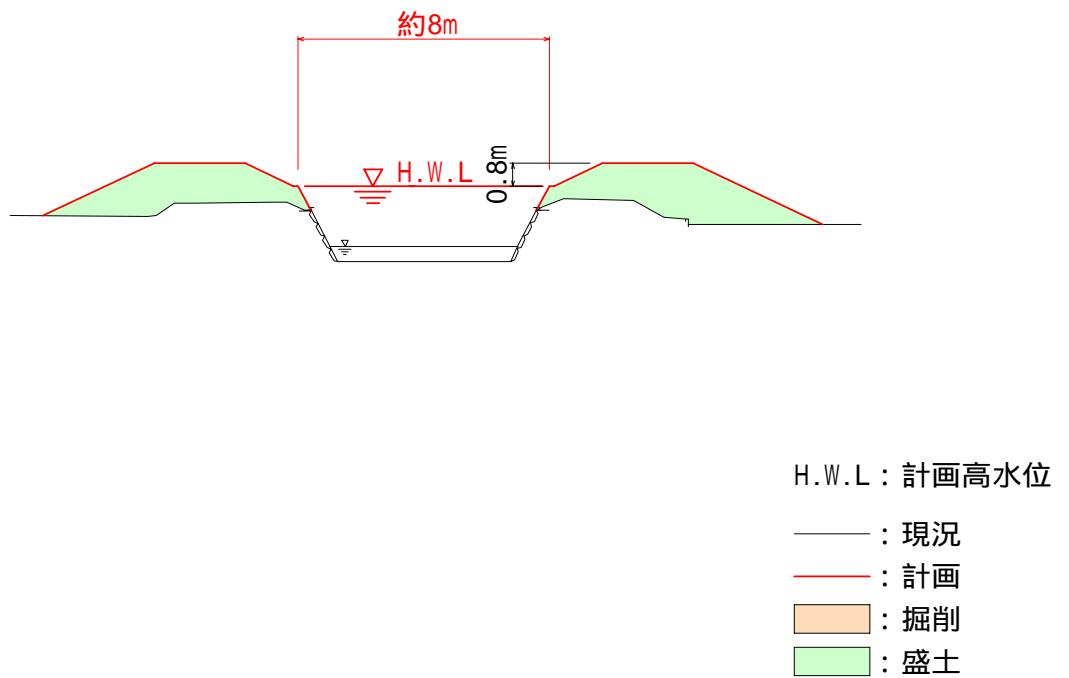


図 3-11 露谷川 横断イメージ図

注) 現地の状況により、横断形状を変更することがあります。

3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的な機能を十分発揮させるよう適切に行うものとします。

堤防及び護岸等の河川管理施設の機能維持や河道の所定の流下能力を確保するために、必要に応じて河川管理施設の点検を行います。

土砂の異常堆積が確認された場合には、生態系及び周辺の自然環境に配慮しながら河床掘削等により堆積土砂を除去し、必要な河川断面を確保することに努めます。

河口に堆積した土砂については、堆積状況の変動等を確認しながら洪水の流下に支障のないよう適正な維持管理に努めます。掘削した土砂については、周辺の海岸の侵食状況を調査し、海岸の保全が図られるようリサイクルするものとします。

また、洪水等において操作を行う必要がある水門・樋門^{ひもん}等の施設については、的確な操作が実施できるよう、操作環境の改善及び管理の徹底を図ります。

3.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

(1) 河川情報の提供に関する事項

河川整備の目標を実現するには長期間を要することや、整備途上で整備目標を上回る洪水が発生した場合には甚大な被害が発生することが予想されます。このため、降雨時におけるリアルタイムの雨量や水位の情報をインターネットにより配信することにより、被害の軽減に努めるとともに、洪水ハザードマップを作成する自治体への支援を行っていきます。

(2) 地域や関係機関との連携等に関する事項

河川の豊かな自然環境を保全し、荒廃した田畑や山林の再生に取り組み将来に引き継いでいくためには、地元住民の理解と協力が不可欠です。そのため、河川に関する情報を積極的に提供し、住民からの意見を聴取し地域の周辺環境や特色を活かした地域に親しまれる川づくりに努めます。

また、河川と地元住民との関係を緊密にしながら河川愛護思想の普及を図るため、清掃、除草又は植栽管理等のボランティア団体活動を通し、河川の適正な利用を促進していきます。